



小学校



野澤 儀之さん
(下延生)

今年の4月に娘が芳賀東小学校に入学してから半年が経過しました。保護者として学校の諸行事に参加してみて、自分が祖母井小学校に通っていた頃を思い出し、いろいろと変わってきたことを感じます。

初めての授業参観日に、私の通っていた当時と同じ教室に入ってまず感じたのは、机が少なく後ろの空きスペースが大きいことでした。クラスの人数が少ないことを実感しました。授業を見学してみると進め方や教材は洗練されており、また日々学校からさまざまな情報が発信され、保護者との連絡方法も確立されていて心強いです。

そして授業終了後は子どもを学童保育で預かってもらってありますが、おかげで安心して仕事を行うことができます。

今後もこのような環境下で、子どもを育てていけることを期待しております。

農業を成長産業に



穂山 拓也さん
(下高根沢)

私が芳賀町の農家に婿入りし、農業に従事し始めて5年が経ちました。現在も義父と共同で米麦と大豆を生産しており、面積は約19ヘクタールになります。また、その他にも1人でスイートコーンやブロッコリー等の露地野菜を栽培・出荷しつつ、町のイベントへの出店で6次産業化にも挑戦中です。しかし町内全体では農家の後継者不足が深刻化しているだけでなく、一部では票目当てのバラまきとしか思えない補助金もあり、町を挙げて解決すべき問題が山積していると感じています。

今後、町の農業を守っていく上で若者の新規参入を促すのは急務です。そのためには新規就農者が初期投資をする際に、低利子で返済期間や一度の支払額を柔軟に変更できる、融資型の補助金を充実させるのもよいと思います。さらに返済実績に応じて次から利息を減免するのもありでしょう。増税につながるバラまきではなく、先を見据えたサポートこそ必要ではないでしょうか。

集落などのあり方について



荒井 俊夫さん
(西水沼)

世の中に「限界集落」という言葉が出て久しい。私の集落も来年には、限界集落の間入りとなる。

さて、近年高齢化などさまざまな理由で集落や自治会を抜ける家庭も少なくない。一方、新たに地域に転入した家庭は集落などには加入せず、名前も分からない人もいる。

そのため、地域の祭や農道管理などの共同活動が困難になりつつある。集落の小規模化や高齢化が進行すれば、集落の機能が停止し、空き家の増加、耕作放棄地の拡大、山林の荒廃、さらには有害鳥獣の増加など生活に大きな影響が出る。

町は地域の現状や実情を把握し、地域のあり方を住民に示し、安心して住み続けられる政策を進めてほしい。

未来につなげる町づくりのため、現実を直視した行政運営をお願いしたい。